

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業要約表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ブータン王国
2. 事業名	地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト ブータン王国における地域課題解決学習（PBL）展開事業
3. 事業の背景と必要性	ブータンでは、2014～2024 年で教育分野の改革を行う計画が進んでおり、「基礎学力の向上」と「21 世紀に活躍できるスキル」の習得を柱として取り組みを行っている。しかしながら、ブータン教育省学校教育局長によると、ディベート形式の講義も少しは加えているが、進級テストのスコア重視の教育となっている現状の改善が課題であり、かかる状況改善のために、日本型教育輸出の一環として、海士町などでも活用されている教育魅力化（PBL）の取り組みを導入する。
4. プロジェクト目標	自ら考えて地域の課題解決を図る資質・能力を育成するブータン版 PBL の成功モデルができる。
5. 対象地域	チュカ県
6. 受益者層（ターゲットグループ）	・直接受益者：チュカ県における3つのパイロット高校、30名の教員、60名の生徒 ・間接受益者：ブータン国内の高校教員約7千人、および高校生約2万5千人
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 短期合宿型 PBL(Project Based Learning) の実践を通じて、ブータンの生徒、教員の PBL に対する理解度、共感性が高まる。 6ヶ月以上の長期型 PBL(Project Based Learning)の実践を通じ、21 世紀の社会を幸せに生き抜くための資質能力が育まれる。 3つのパイロット校において、6ヶ月以上自律的、継続的に PBL を実践できるブータン人教員が育成される。 ブータンの学校に適した PBL の自律的、継続的実践のために必要なツールが作成される。 <p><地域活性化に資する取り組み（日本の地域に還元する活動）成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 海士町の地域課題解決への貢献 本プログラムに参加した隠岐島前高校の生徒の経験や知見が海士町の地域課題解決の具体的な実践に生かされる。 海士町のグローバル人材育成 海士町の高校生に対してグローバルに活躍するための資質能力を磨く機会が提供され、5年後、10年後に町の産業や行政を担う人材の育成につなげる。 島根県/日本全国の学びのコミュニティ形成 海士町の高校生と、島根県/日本全国の高校生や教育関係者が GNH や幸せな生き方について共に学ぶコミュニティをつくり、具体的な実践や幸福度の向上につなげる。
8. 実施期間	（西暦）2022 年 1 月～2024 年 12 月（計 36 か月）
9. 事業費概算額	59,606 千円
10. 事業の実施体制	海士町が中心となり、（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム、認定 NPO 法人カタリバ等の協働チームにより実施。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体名）	島根県隠岐郡海士町
2. 活動内容	基礎自治体。隠岐島前高校での教育魅力化の取り組みで注目を集めている。